



あゆみ

青梅市立河辺小学校
令和7年度7月号
青梅市立河辺小学校

学校便り No. 693
令和7年7月1日
校長 関谷 望

「ものの見方」 ～ちょっと視点を変えて、よさ・楽しさを見付けてみよう～

校長 関谷 望

先日の児童朝会で「ものの見方」という話をしました。(以下、要約をご紹介します。)

みなさんに一枚の絵を紹介します。この絵、女の人を描いたものなのですが、そう見えますか。では、この絵の女の人は何歳くらいに見えますか。

20歳くらいの若い女の人に見える人

えっ、おばあさんに見えるけど…という人

若い女性に見えるという人にとっては、おばあさんに見えると思った人は「ふざけているのかな」と思ってしまいますよね。逆に、おばあさんに見えると思った人は、「若い女の人」という答えに戸惑ってしまいますね。

実は先ほどの絵は、見方によって若い女性にも、おばあさんにも見える絵なのです。

「同じものを見ても、ちょっと意識を変えるだけで、違って見えることがある」という実験をしてみました。

みなさんはこれまでの経験から、すでにいろいろな「ものの見方」をしています。例えば、「算数は面白い」と感じている人もいれば「算数はつまらない・嫌い」と感じている人もいます。同じ算数をしていても、その人の「見方」によって、感じ方は変わります。

だとしたら、「嫌い」「イヤだ」と思うのにやらなければならないのは…、大変ですね。自分の見方をちょっと変えて、「この問題はできた」「これはできそうだな」と算数の面白さを発見した方が、楽しく取り組みます。

あなたの周りに、あなたが「あの人は嫌な人だ」とか「苦手だ」感じている人がいるかもしれません。でも、少し見方を変えると、その人のよさや素敵などところが見つかるかもしれません。

「苦手なこと、嫌いなこと」と自分から遠ざけていることも、ちょっと見方を変えて試してみると、そこまで苦手ではなかったり、むしろ好きになったりすることもあるかもしれません。

特に、みなさんは凄い成長期です。小学生は、目には見えない心や、頭の中・脳もすごいスピードで成長しています。「ものの見方」も、「これまでの自分の見方」だけにこだわらずに、「違う見方はないかな」「これの良さはどこかな」「きれい、苦手と思っていたけど、そうでもないな」と考えると、人生は豊かになるんじゃないかなと先生は思っています。

つい先日スタートしたような気がする令和7年度ですが、1学期終了まであと3週間となりました。今年の梅雨は、晴れると真夏のような天候となるので、水泳の授業は各学年とも順調に実施することができています。私は、どの学年の水泳の授業にも参加しましたが、子供たちが一生懸命に取り組んでいる様子をたくさん見ることができています。水泳は苦手な子にとっては「怖い」「うまくできない」と感じる運動ですが、そこから逃げずに頑張っている姿がとても素敵です。

人には得手不得手や、好きなこと・嫌いなことがあるものです。しかし、可能性をたくさん秘めているのに、先入観で「自分には(これは)できない」「無理」「これは嫌い」と遠ざけて、諦めてしまうことは、とてももったいないことです。また、人生を生きていくにも、自分の可能性を狭めてしまったり、生きづらさを感じてしまうことにつながったりしてしまうのでは…と思います。

『ものの見方』を転換して、物事や人のよいところや楽しいところなど見付け、ポジティブな気持ちを作る力を、子供たち一人一人が養ってほしいなと考えています。

